

友よ！ともに未来を生きよう

活動報告—居場所づくりと社会参加(就労支援)

情報センターISIS(イシス) 大阪

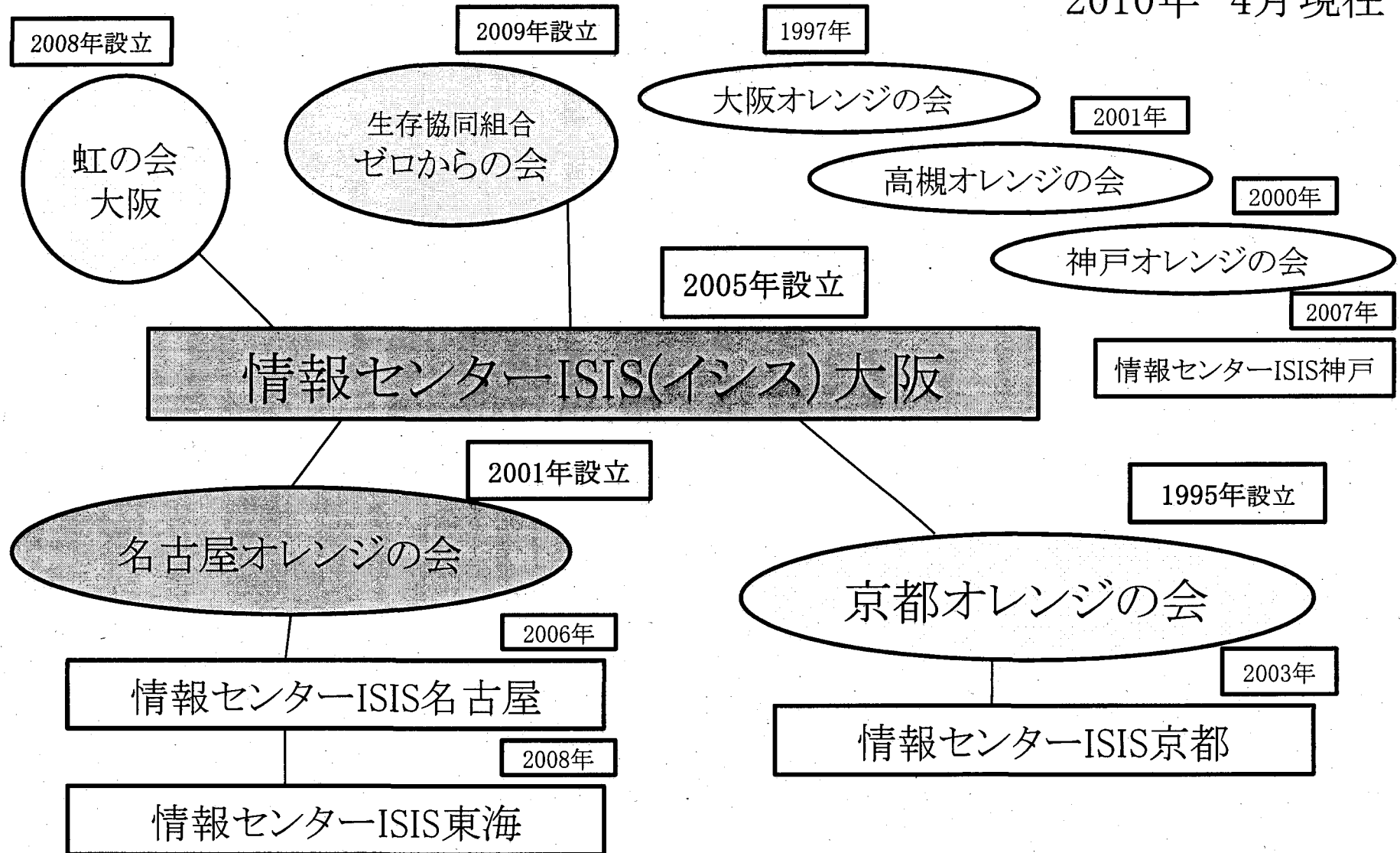
ひきこもる子を持つ親の会の設立へ

京都オレンジの会、1995年設立。大阪・神戸・名古屋など
関西各地に家族会が広がる。

- 20年ほど前に、〈ひきこもり〉が社会問題化
〈ひきこもり〉問題に対して、公的機関などの社会的な理解が少なかった
- 社会の中の〈居場所—親の会〉
親たちが定期的に集まり、自ら問題解決を模索し、家族の孤立化を防いだ
- 〈居場所—親の会〉の効用性の親たちの気付き
親自身の心の痛みを分かち合うことでの癒しを持った
問題を持っているのは、自分たちだけではないことに気付いた

私たちのネットワーク

2010年 4月現在



家族会による若者の居場所づくり

- 居場所づくりの必要性に気付き、家族が運営・維持に協力し合う
 - ・設置場所の確保
 - ・運営費用の家族負担
 - ・家族会の広報(勉強会・講演会を新聞案内欄に依頼)
 - ・専門家への支援を求める

- 安定した居場所運営のため、行政へ働きかけ
 - ・家族会のNPO法人化の動き—社会的な責任と認知度を高める
 - ・共同作業所設立への動き

若者の居場所運営から気付いたこと

- ・若者の気持ちを話せる場所の確保ができたこと
- ・自己表現とコミュニケーションの訓練の場となったこと
- ・家庭以外で、居場所に通って社会的日常生活ができたこと
- ・友人や仲間意識ができたこと
- ・仲間を通して体験する社会的体験ができたこと
- ・家族関係が修復したこと

居場所が計り知れないほど、「生きなおす」という
若者の心の成長に欠くことのできない場所だと確
信する—生存保障のメッセージを社会で受ける場所—

情報センターISIS(イシス)の設立の背景

Integrated Support For Independence -Start

<自立に向けての総合的な支援・エジプトの女神イシスから>

- 親たちの願いが、「元気になってほしい」から「仕事をしてほしい」へと変化
 - ・職親、ジョブコーチの役割
- 若者当事者へ直接社会参加への道が開く
 - ・親との関係性が悪い若者にとっては、イシスは家族の匂いがしなかった
- 社会全体で若者に対して、就労支援サポートの気運が盛り上がる
 - ・若者が社会的弱者として社会問題化する

情報センターISIS大阪の5年間の 活動の記録

別紙テキスト参照

参考「就労支援報告書／京都オレンジの会

名古屋オレンジの会

活動する若者たちの姿



琵琶湖近江舞子キャンプ

情報センターISISとオレンジの会の活動を通して

生活保護受給者・生活困難者 の社会的居場所づくりの提言

— 山田 孝明

提言 1

- ・生活保護受給者、および生活困難者の人たちの〈社会的居場所〉の必要性

1. 全国にモデルケースとして、

東京・横浜・名古屋・大阪・福岡など主要各都市に6ヶ所程度の設立を緊急案件とする

(具体的には、共同作業所設立案件などが参考となる)

＜社会的居場所＞の設立にあたっての留意点

1. 社会的居場所の設立にあたる当事者たちのニーズの把握

他人に「いじられたくない」という感性と丁寧に向き合う

2. 「貧困」に対して各地の先進的に当事者たちへの支援をしているNPO団体と連携する

提言 2

新しい公共のあり方を考える

- 社会的居場所の効果測定を第三機関、民間機関などが行う
- 行政的な数値目標ではなく、利用者のニーズに対しての満足度の重要性
- 社会福祉理念に沿って、当事者も運営主体に参加できること